

第54回日本皮膚免疫アレルギー学会 学術大会を主催して

(2024年12月20～22日)

※ビッグパレットふくしまとWeb配信のハイブリッド開催

山本 俊幸

福島県立医科大学皮膚科学講座教授

開催にあたって

2024年12月20～22日にかけて本学会を開催しました(事務局長:石川真郷 実行委員長:山本美友貴)。幸い天候にも恵まれ、心配していた雪による交通の乱れもなく終了しました。「クリスマスの直前なのでプレゼントをいろいろ用意したい」「参加者の皆さんに楽しんでいただける学会にしたい」と

いう趣旨で、とくに力を入れたのはシンポジウムと懇親会でした。記念品や幕間のスライドなど随所に遊びの趣向も凝らしました。また、当福島県立医科大学(福島医大)の教室員のことも知ってもらうのにより機会だと思い、彼らにも発表のチャンスを与えました。

講演・シンポジウムと学会賞

海外からの招聘講演は、私がドイツに留学していた時期に一緒に研究をしていたKarin Hartmann先生に肥満細胞症の講演をお願いしようと思いましたが、何度e-mailを送ってもレスポンスがなく、最後はいまどきながらFAXを送りさらに同じものを郵便でも送るといった原始的な方法でようやく連絡がついた次第でした。快諾して貰えてからも、詰めめのe-mailにレスポンスがなく、プログラムの印刷に間に合わないとい何度催促しても演題や抄録を送ってもらえず、結局講演タイトルは私がつけ、抄録はなしといった有様でした。事務局の方に、ここまで反応がない海外演者も珍しいといわれ、講演なしという最悪のシナリオも覚悟しましたが、直前に返信が来て胸をなでおろしました。

特別講演(京都大学・梶島健治先生)および教育講演(北海道大学・氏家英之先生、目黒陳皮膚科・陳科榮先生、順天堂大学・三宅幸子先生)ではいずれも素晴らしいご講演を賜り、御礼申し上げます。シンポジウムに関してはHPで公募もしたのですがアナウンス不足で応募は2件のみ(接触皮膚炎アップデート、金属アレルギーアップデート)で、それ以外



本大会ポスター

はすべてこちらで大小多数企画しました[「外傷と記憶の謎に迫る」「腫瘍免疫の最前線」「真菌免疫とIL-17」「Paradoxical reactionから紐解く病態への理解」「脱毛を伴う様々な疾患」「肥満細胞症」]。また、コンセンサスシンポジウムでは、膠原病の皮膚症状で、人によって考え方が異なったり、私自身の疑問点や、他の人の発表を聞いておかしいと思う点などを取り上げ、担当の先生方に解説していただきました。シンポジウムの中には「結節性痒疹とARPC～私はこう考える」「Ashy dermatosisと固定薬疹～私はこう考える」「湿疹と乾癬 両者の類似点・相違点を再考しよう」「陽の当たらない疾患に目を向けよう」といったアレルギーや免疫とあまり関係のないものもありましたが、全体を通じて面白かったとお褒めの言葉を多数いただきました。

会長講演は、「知っておきたい膠原病の非定型皮膚疹」として自分がこれまで経験した膠原病(類縁疾患)・血管炎症例の中から、少し変わったものを紹介しました。

学会賞は、本学会理事長、副理事長、学術委員長、雑誌編集長、次期大会長に審査をお願いしましたが、当教室に大分付度していただいたようで、結果を聞いてびっくりしました。

【金賞】佐々木和美(独立行政法人製品評価技術基盤機構)

【銀賞】草野美沙希(福島医大)、佐藤 真由(福島医大)

【銅賞】田中 理子(横浜市立大学)、沼田 貴史(東京医科大学)、原田 晋(はらだ皮膚科クリニック) (敬称略)

遊び心を込めた懇親会・幕間スライド

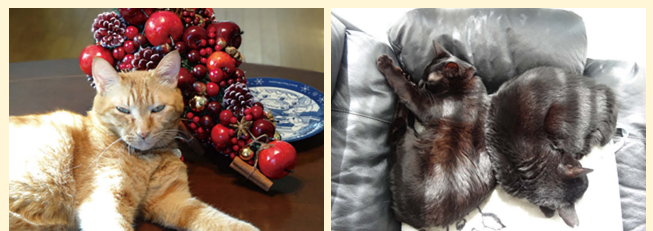
懇親会は、ビンゴゲームや出し物を準備しました。とくに出し物には力を入れて、当科の医局員で1軍2軍3軍のダンスチームをつくって披露しようと提案しましたが、乗ってきてくれる医局員は少なく、最終的に学生にも協力してもらうことになりました。曲目は私が大体決めましたが、「先生もやりますか?」と誰も聞いてくれずまったく期待されていないことがよくわかりました。当日のランチ

ンセミナーでは、ちょうど前月のテレビ番組『マツコの知らない世界』で紹介された駅弁東日本グランプリに輝いた郡山の「海苔のりべん」を提供したのですが、お昼に海苔のりべんを食べた医局員がノリノリでダンスを披露しました。

概して学会の隙間時間に流れる幕間スライドは開催地の観光写真が多く、それはそれで綺麗なのですが、今回は、医局員紹介[「この論文書いたの誰?」「同門会誌にこの記事書いたの誰?」]、福島の紹介[「福島見どころ食べどころ」「温泉紹介」「福島の美味しいフルーツ・蕎麦・ラーメン」「ふるさと納税オススメ品」]、その他[「うちの猫」「私がこいつ(医局員)は許せないと思った瞬間」「患者にいわれてびっくりしたこと福島編」「私が薦めるBestシリーズ」など]を流しました。

おわりに

最終日には、私がプログラムの会長挨拶に「雪でも舞い降りてくれるととてもロマンチックな忘れられない会になるのでは」と書いた通り粉雪が舞い散ってくれました。他施設の方々に当科教室員の名前や顔も少しは覚えていただけたかもしれず、会全体を通していまの福島医大の力をおみせすることができ、教室員全員でよいおもてなしができたのではと自負しています。700名以上の方に現地にお運びいただき、Web参加者を含めると全部で900名以上の方々にご参加いただき無事盛会裏に終了することができました。ありがとうございました。



準備した記念品(下段は猫ちゃん切手)